

日付:2015年1月4日／聖書:ルカによる福音書3:1～20

主題:「道筋をまっすぐにせよ」

この2015年はどういう年になるのか。昨年末に衆議院総選挙が行われ、保守政党の圧勝に終わり、安倍政権は長期政権となろうとしている。「憲法改正」「原発再稼働」「消費増税」が懸念され、沖縄では「辺野古新基地建設強行」が発信された。昨日の新聞に「近く予定する海上作業の再開を前に、シュワブゲート前で座り込みなどの反対運動をする市民の排除を徹底しよう警察当局に指示していた」とある。この国の視座は、市民には向けられていない。

今朝のルカ福音書には、バプテスマのヨハネの登場に、時の政治状況がまず記されている。わざわざ周辺諸国の支配者、権力構造を書き並べるのは、その時代にどんな国際関係があり、その関係の中でどういう政治が行われ、民衆がどういう支配構造の中に置かれていたかを示すためである。この神の御業が示される中で、救いの出来事は、単に精神的な世界のことではなく、具体的な歴史の只中で、神の御業、救いの出来事は起こっていく。ルカ福音書はまずそのことを示そうとしている。

また、バプテスマのヨハネの登場にイザヤ書の言葉が記されている。この「谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる」とか、「曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らに」とか、「高いところは低くされ、くぼんだ谷は埋められる」とは、一種の社会改革を示している。でこぼこで、曲がった道かのような社会情勢に、変革を指示している。ヨハネは、このイザヤ書の言葉に押し出されるように非常に厳しいこと群衆に語る。ここのメッセージは、不公平と不公正が成されている社会に対して、格差社会を当たり前のように作り出している国家に対して、その国家に隷従している群衆に対して、「下着を2枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ。」という。それは、格差社会ではなく、不公平な社会ではなく、分かち合う社会を作りなさいということ。ヨハネは、そう群衆に語りながら、悔い改めのバプテスマを促している。

今年、「戦後70年」を迎える。70年は非常に長い年月に思えるが、しかし 未だにその戦争の悲しみ、傷は癒えていない。私たちは、その歴史的事実、不条理な現状を踏まえて、「その道筋をまっすぐにせよ」という御言葉に押し出されて行きたい。これこそ“福音”なのである。(神谷)